

12024年度総会&懇親会報告

一年振りです。今宵はコンサートに

そして、懐かしい歓談の一時を...



もう三カ月前となりましたが、去る6月14日、松柏園ホテルにて本年度の総会並びに懇親会が行われました。

総会では例年通り仁保支部長の挨拶に続いて、本年の大学代表としてご出席の玉木興慈文学部長より学生や学内の近況を交え、ご挨拶をいただきました。

議事は会員107名中22名の出席および60通の委任状をもって、高岡宏信さん(2001年・文卒)議長のもと、これも例年どおりですが特に何の問題もなくすべて原案通りに承認され、最後に学歌斉唱をもって総会行事は終了となりました。ご欠席の方には同封の総会資料をご参照ください(ご欠席の方のみ郵送)。

その後、会場を移動し《富永祐介ミニコンサート》が行われました。最近はいんターネットの発達により、あらゆるジャンルのあらゆる動画に触れることができますが、やはりライブに勝るものはありません。体を通して触れる音や言葉は、表現者の世界をより直接的に感じていくのでしよう。特に『二河白道』という作品は、譬喩をもって表された浄土の教えを歌にしたもので、その切々たるメロディとも相俟ってすっかりみんな聞き入っていました。そのほかにもご案内のピラでご紹介したような歌の数々を、たっぷり堪能した40分間となりました。

その熱気の覚めやらぬなか、年に一度の懇親会が始まり

ました。まず、校友会本部を代表してご出席の現役フリーアナウンサー、稲野一美理事(龍谷大学の大きな式典でも司会を務め、テレビやラジオでは多くのレギュラー番組を持つ。特にモータースポーツの実況アナとして有名で、興味のある方はインターネットで調べてみてください。1997年・文研究科修了)より校友会活動について説明があり、それに引き続いて乾杯の音頭となりました。

32名の参加のあった懇親会の様子は例年どおりでしたが、今年は北海道出身の湯浅幸子さん(1977年・短卒)セレクトのゲーム景品だったため、ちょっと残念なゲームだったにもかかわらず(!?)。いいんです、ゲームの企画・進行の本人が言っているのですから...) 北海道の銘菓、名産品で大いに盛り上がった時間となりました。

また、今年初めての参加者も数名いて嬉しかった反面、昨年参加いただいた方が欠席となると、昨年の懇親会は面白くなかったのかなと大いに不安になります。それぞれに友人、知人を誘い合っご参加いただければ、さらにはお互いの思いや意見が交わされる校友会になれば、もっと盛り上がっていただけるのではと期待するところです。

お互い、年にたった一度のご縁となる方も多くいることでしょう。本活動に対し、より一層のご参加、ご協力のほどお願い申し上げます。



総会にてご挨拶いただく玉木興慈文学部長



私が龍谷大学に入ったのは1987年4月です。37年前のことです。

私は旧築上郡築城町、航空自衛隊の立ち退き区域のかかる船迫地区にある小さなお寺の生まれです。お寺が嫌で早く遠くへと考えた私は、京都にある龍谷大学に行くことが許される一番の選択だと考え進学したと思います。

ちょうどバブルの時期、いろんなものが新しくなっていく京都は華やかで、京阪電車が地下へ、そして地下鉄が近鉄・竹田駅までつながった頃です。私の下宿は「第一深草荘」の1階の102号室、引き戸の玄関を開ければ真ん中に廊下があり、左右に部屋、そして奥に共同のトイレと洗濯機、風呂なしの木造二階建てで、廊下にはピンクの公衆電話がありました。テレビに大きな声で文句をいう男、前は般若心経を唱えるおばさん、上は頻繁に喧嘩する夫婦が住んでいました。

入学してすぐにはいったバスケット部の練習が終わって部屋に戻ると21時を過ぎていました。それから自炊で夕食、急いで銭湯に行かないと風呂に間に合わない日々でした。

住みだしてすぐに「お前、田舎者やろ」と言われ、「部屋や自転車には鍵をかける」「盗まれるぞ」と言われました。確かに部屋の引き戸は鍵をかけないまま寝ていましたが、

自転車には鍵をかけていました。

ある日の朝、起きると自転車がありません。その話を友だちにすると、「チェーン型の鍵でどこかに固定しないと取られるんは当たり前や、そらあ「あかん」と言われ、なるほど《田舎者》かと、何だか情けなくなりました。

一回生の年末、向島のヤマザキパンのバイトのお金が入らないと帰れない状態でした。その給料が入る朝、帰省するために部屋を片付けゴミ出しをしていると、深草中学校の塀

### おまえ、田舎もんやろ

1991年・文学部卒

川原 智生



を乗り越えて走り去る男を見たのです。そして部屋か倉庫のような建物から煙が見え、放火だと思いつぐに消防に電話をかけました。建物はだいぶ燃えたけどすぐに消火され、それより給料、給料と出かける準備をしているとドンドンドンと大きな音がして大柄なスーツの男が入ってきたのです。あまりの展開に心臓が止まりそうになりました。「君が通報したのかな?」。一瞬理解が出来ず、間をおいて「はい」と答えると「では署まで来てもらいたい」。「僕がですか?」と言う

のが精一杯でした。

外で待っていた覆面パトカーに乗せられ到着した伏見警察署では窓に鉄格子のある部屋に通され、そしてごっつい体の男が入ってきました。「ご飯は食べたか」と聞かれ、もしやカツ丼が食べれるのではと思いましたが、その日は弁当を食べたばかりで仕方なく「はい、食べました」と答えました。するとその男は椅子にドカツと座り、「君が通報者だね。誰か見なかったかな?」「男が一人塀を乗り越えてきて、それから煙が…」。「年齢は?」「高校生から20代ぐらいかと」と答えると、しばらくして急に大きな声になり「君はどうしてそんな朝早くにそこにいたんだ」とまるで疑っているかのような質問。何とも情けなくなってしまうました。通報したのに…。

今日バイトのお金をもらって福岡に帰るところ。朝、部屋を片付けゴミ出しに外に出たこと。また、大阪の南港からフェリーで帰るの

で時間がないことなどを正直に伝えました。やっと事情聴取が終わると「心配するな」と言っ出ていきました。外に出るとパトカーが用意されバイト先へ。そして下宿へと送ってもらい無事フェリーに乗船しました。

出港してすぐにテレビで火事のことがおんエアされていました。改めてお念仏薫る故郷と人々を想う機会となった思い出です。



〈ご存じですか?〉シリーズその5

(くらいかな、と……)

# 『龍谷賞』をご存じですか?



適当にコーナーを作ってしまったが、

実は例年本部事務局より、龍谷賞候補者の推薦について、という依頼がきています。

今までは事務局判断で候補者なしと返答してきましたが、支部全体で考えていただければと思います、このたび『龍谷賞』についてご紹介、ご説明をさせていただきます。

\*\*\*\*\*

『龍谷賞』とは、「校友会員の意識を高め会員個々の励みとすることを目的として、社会に貢献し顕著な業績をあげた卒業生を表彰する制度で、1990（令和2）年に第1回贈呈式を開催して以来、本年度35回目を迎え」と依頼要項にあります。

また龍谷賞以外にも『龍谷奨励賞』『龍谷特別賞』とあり、奨励賞は「顕著な業績をあげ、将来を嘱望される会員に対して贈呈する」、特別賞は「校友会員に限定せず、社会に貢献した方に対して贈呈する」との説明がありました（特別賞は校友に限定せず、とはいえ、やはり龍谷大学と何らかの関わりのある場合と思われれます）。過去の受賞者には、龍谷賞に会報11号で

もご紹介したボクシングの世界チャンピオン、谷口将隆氏（令和4年受賞・2016年文卒）や、古いところでは平成10年に高田好胤氏（薬師寺管主。1946年文卒）等が受賞されています。

また令和4年の安武義修氏（1999年文卒）奨励賞受賞は、地元・吉崎商店街の再生に貢献し、外国人との共生と共修を目指した社会活動にも取り組んでいると福岡支部から推薦を受けてのことでした。

特別賞には沼田恵範、五木寛之、平山郁夫、佐渡裕等々の錚錚たるメンバーが名を連ね、龍谷大学の「らしき」を感じさせてくれます。ちなみに各年、各賞の受賞者詳細につきましてはインターネット上の〈龍谷賞〉で閲覧できますので、ご関心のある方はどうぞそちらをご覧ください。

本年度の推薦につきましては締切りを過ぎましたが、おそらく来年も同様に行われるものと思われれます。各賞に該当する方がどこかにおられないかお心掛けいただき、お心当たりのある方にはどうぞ事務局までご一報いただければと思うところです。

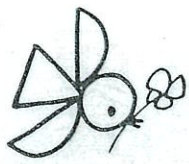
なお、それぞれの賞には龍谷賞50万円、奨励賞・特別賞にはそれぞれ30万円の賞金が出ることを、最後に申し添えさせていただきます。



## 感雑局務事

▼すっかり居直って、この時期の発行です。この夏は、個人的には亡父の初盆であったり、また月末の台風騒ぎ等でアツという間に過ぎ去った気がしますが、この暑さだけは過ぎ去るところかいつまでも居座って、延々と夏が続いています。時間はあっても気力がすっかり奪われ、会報に限らず仕事の手につかない毎日です（と、やっぱり一言言い訳させていただきます）。▼この9月14日に、学生当時所属していた吹奏楽部の、それも2年先輩を中心に上下5年くらいの狭い範囲の非常に懐かしい同窓会をするとの連絡がありました。しかし彼岸前の連休中に大阪・箕面での一泊などともできず、当然不参加となりました。また、来春にはL76真宗学専攻による同窓会が計画されているようなのですが、これも休日前に遠方で、となりそうでも、とても無理かと今から残念です。もう少しながしかの配慮を、とつい思っています。▼そんなことを考えていたら、逆に当方の設定した日時に同じような状況の人がいるんだろうなと、今更ながらに考えさせられます。忙しいとか暇とか、また遠い近いにかかわらず縁さえあれば会うときは会うのがこの娑婆世界ですが、少しでも多くの方にその縁を結んでいただきやすいよう、今後の活動でも心掛けなければと思わせられた出来事でした。〔記・〇〕





龍谷写真館 in 北豊



龍谷大学校友会 福岡県・北豊支部

◇上、みんな笑顔で記念撮影。左と下、懇親会の開始に当たり、稲野理事によるご挨拶と乾杯の音頭。今年も楽しいひとときとなりました。



◇右、参加者への配付物。今年の記念品は、大宮・深草・瀬田コーヒー。残念ながら、味の違いが分ならず!!



◇富永裕輔ミニコンサート(上・下) 楽しい曲からしっとりした曲まで、バラエティに富んだミニコンサートでした。左、即売会でCDの売れ行きも上々。



◇上、祖父から孫まで、三代で参加の西明家の皆さん。いつまでも皆さんお元気でご参加ください。  
右、参加してみたら高校時代の恩師がいました。谷川先生、会員登録お願いします。

